

設立40周年記念 ロゴマーク採用のお知らせ



一般社団法人日本リハビリテーション工学協会（RESJA）は、2026年に設立40周年という大きな節目を迎えます。これを記念し、40周年記念事業の象徴となるロゴマークの公募を実施しました。多数のご応募をいただいた中から、厳正な審査を経て、このたび40周年記念ロゴマークが上記の作品に決定しました。採用されたロゴマークの作品名は「**未来への架け橋、世界をつなぐ温かい技術**」です。

本ロゴは、「40」の数字を基盤とし、0の部分に輪や渦として表現することで、人と人、人と技術、そして世界をつなぐRESJAの理念を象徴しています。また、車いすユーザーを想起させる造形や、動きのある曲線によって、40年にわたり挑戦と進化を続けてきた協会の歩みと、未来へ進む力強さが表現されています。

このロゴマークを手がけたのは、彦根正（ひこねただし）氏です。彦根氏は、長年にわたり培ってきたデザイン経験をもとに、RESJAの40年の歴史と、リハビリテーション工学が果たしてきた社会的役割を、視覚的にわかりやすく一つの形にまとめ上げました。

このデザインに込めた思いについて、彦根氏は次のようにコメントしています。「40年の歴史と、技術の進化を象徴するロゴとしてデザインしました。渦巻く曲線は、人と技術、そして世界とのつながりを表しています。リハビリテーション工学が支える、温かい未来への発展を表現しました。」

こうした思いが込められた本ロゴマークは、40周年記念事業をはじめ、協会誌、Webサイト、各種広報媒体などに幅広く活用していく予定です。40年の歩みを振り返るとともに、次の時代へと向かうRESJAの姿勢を示すシンボルとして、会員の皆さまと共有していきたいと考えています。

【会長コメント】

40周年という節目にあたり、本協会の理念と歩み、そして未来への展望を象徴するロゴマークが誕生したことを、大変うれしく思います。このロゴには、RESJAが大切にしてきた人と技術の協働や、社会とともに歩み続ける姿勢が、あたたかく、そして力強く表現されています。

40年の歴史を礎に、次の時代へと進んでいくRESJAの姿を、このロゴとともに会員の皆さまと共有しながら、さらなる発展につなげていきたいと考えています。